

『モンテッソーリ教育に基づいた玩具の開発』

こども保育科 3年 阿部 華子 中村 優花 堀口 紗貴

【はじめに】

モンテッソーリ教育やシュタイナー教育など、その教育法は広く海外や国内で注目を集めつつある。その中でモンテッソーリ教育は、様々な業界の第一線で活躍する方々を生み出している教育法である。

モンテッソーリ教育は、「子どもには生まれながらに自ら成長発達する自然のプログラムと力が備わっており、子どもを一個の人格的存在として尊重するとするもの」とあり、世界に大きな影響を与えている。

そこで私たちはモンテッソーリ教育をより深く知るために、自身で調査し、モンテッソーリ教具の制作を行った。

【方法】

モンテッソーリ教育を取り入れているアイン長久手保育園と協力し、モンテッソーリ教育ではどのような教具を保育に活かしているのかを実際に見学に行った。その際に学んだ子どもの姿やモンテッソーリ教具の知識を踏まえ、制作した。モンテッソーリの教具には以下の工夫がある。

- ・一つの教具に一つのねらいがあるか。
- ・子どもが自分で使い方の誤りができるか。
- ・見た目が色鮮やかであるか。
- ・子どもが自分で持ち運びできるか。

制作した教具はアイン長久手保育園に持っていき4歳児の子どもの様子や反応を観察した。

【結果】

子どもに親しみのある生き物をテーマに取り入れたことにより、興味を持って遊ぶ子どもの様子が見られたと考えられた。また、提供したイラスト以外でも三文字の言葉を自分たちで考え、楽しむ姿が見られた。

改善すべき点もいくつか見られた。カードが種類別にまとめられていなかった為、子ども一人では出し入れが難しかったことや、カードを入れる箱が一つしかなかった為、取り合いになりあそびに集中できなかったことなどが主な要因にあがった。

【考察】

モンテッソーリ教育では、子どもをよく観察することが大切である。その時期に大切なものを理解してやらせてあげることが子どもの自立につながると感じた。子ども自身の育つ力を認め、彼らがそれを選択できる環境を作っていかなければならない。

今回の教具の制作では、モンテッソーリ教育の奥深さを知り、より細かい配慮が必要であった。子どもが興味を持てる教具であること、自分で遊びを展開し、間違いに気づくなど、子ども自身の力を引き出す工夫が難しかった。